

Ⅱ 柏尾地区連合町内会編

柏尾町内会を含めた9自治会町内会が柏尾地区連合町内会を構成しています。

この編では、柏尾地区連合町内会誕生の経緯と、柏尾町内会を除く8自治会町内会の紹介、更に現在連合町内会が主催して行っている秋季レクリエーション大会、餅つき大会など主要行事の発祥の経過を紹介しています。

更に番外編として、新たな自治会誕生の可能性についても触れています。



1 柏尾地区連合町内会の誕生について

町・丁目・字等を単位として構成される単位自治会町内会を基礎にして、おおむね中学校通学区程度を単位として構成されるのが「地区連合町内会」という組織である。柏尾地区連合町内会を語るためには、その出身母体である「旧川上地区連合町内会」について説明しなければならない。（「旧」を付けるのは「現川上地区連合町内会」と区別するためである）

旧川上地区連合町内会は昭和35年4月1日（1960）に9町内会の連合体として発足している。この旧川上連合町内会は横浜市に統合される前の「鎌倉郡川上村」の区域とほぼ等しいものと考えられ、柏尾町、舞岡町、上柏尾町、平戸町、品濃町、前田町、秋葉町、川上町、それに平戸平和台の9自治会町内会で構成されていた。その後都市開発が急速に進み、それに従い加入自治会町内会数はうなぎ登りに増え、昭和57年度の旧川上地区連合町内会の秋季体育大会には23自治会町内会が参加するに至っている。当時この旧川上地区連合町内会は戸塚区の連合町内会の中でも一二を争う巨大連合町内会で、月1回の青体指協議会は、複数の委員を選出している自治会町内会もあった関係もあり60名以上の委員が集まる大きな会合であった。（青体指とは青少年指導員と体育指導委員を総称した呼称）

こうして組織が巨大化すると個々の地域の個別の課題が取り上げられにくくなり、また意思伝達にも支障をきたすようになったため、昭和60年代に入ると連合町内会を分割する動きが各地で出始めることとなった。

そして昭和63年4月1日（1988）、旧川上地区連合町内会から平戸地区（11自治会町内会）、東戸塚地区（同14）、舞岡地区（同6）がまず分離独立することとなったが、柏尾地区は旧川上地区連合町内会へ残ることとなった。

JR東海道線を挟んで前後に単位自治会町内会を持った旧川上地区連合町内会から柏尾地区が分離独立するのはそれから2年後の平成2年4月1日（1990）で、当初8自治会町内会からスタートしたが、平成13年（2001）に横濱優彩の街自治会が新たに加入したことで現在は9自治会町内会で構成されている。

この同じ年に平戸地区が現平戸地区（9自治会町内会）と平戸平和台（同4）に分かれているので、旧川上地区連合町内会は結果的に6つの連合町内会に分離されたことになる。

柏尾地区連合町内会は平成22年に創立20周年を迎え、その記念祭を柏尾小学校の地で盛大に行ったことは記憶に新しい。

地区連合町内会を代表する連合町内会長は任期2年で、9自治会町内会の会長会で互選の形をとっており、現在までの歴代連合町内会長は以下の通りである。

初代会長：平成2年～平成4年 益田 庄作 (柏尾町内会長)
 第2代会長：平成5年～平成15年 齋藤 喜好 (上柏尾町内会長)
 第3代会長：平成16年～平成20年 齋藤 宣雄 (柏尾町内会長)
 第4代会長：平成21年 古谷 登 (上柏尾町内会長)
 第5代会長：平成22年～ 瀬田 正一 (柏尾台自治会会長)

平成23年現在柏尾地区連合町内会は9自治会町内会3163世帯で構成されている。

町内会・自治会名	会 長	世 帯 数
柏尾町内会	齋藤 純一	860
上柏尾町内会	綿貫 純一	677
柏陽台アパート自治会	遠峰 隆	475
柏尾富士見台自治会	矢弓 進	458
柏尾台自治会	瀬田 正一	360
横濱戸塚優彩の街自治会	真壁 康夫	153
東戸塚グリーンハイツ自治会	青木 幹男	71
東戸塚マンション自治会	宮本 英雄	70
県営柏尾アパート自治会	梶谷 和子	39

2 加盟自治会町内会の紹介

柏尾町内会を除く各自治会町内会を以下に紹介する。



<柏尾地区連合町内会略図>

(1)上柏尾町内会

昭和14年4月1日(1959)に上柏尾町内会として発足しました。町内会活動の中核となる町内会館は平成2年に完成しました。町内会の独自の活動としては平成21年11月に防犯パトロールを編成し地域での犯罪防止の抑止力になっています。また柏尾小学校の児童を見守る学援隊を支えるべく多くの協和会(老人会)のメンバーが参加して頂いております。支えあう安心・安全な町作りを基本理念とし、教育、青少年の育成に力を入れることをモットーとし活動しています。

(2)柏陽台アパート自治会

昭和54年4月(1979)より柏陽台アパート自治会として発足しましたが、それ以前から準備を行ってまいりました。昭和54年の自治会発足当時から夏祭り(盆踊り)を行ってまいりました。当自治会の隣に優彩の街が出来る前は柵ブリヂストンの社宅が5棟あり、スーパーマーケットもありました。自治会の独自の活動としては住民全員参加の春、秋年2回のさわやか運動(草刈、樹木の剪定)を行っております。また老人会の活動(学援隊等)も活発です。自治会の年間行事は各専門部会を作って、目的別に各人が協力しあって行動しています。原則全員で意識を持って行動するのが自治会の特徴です。

(3)柏尾富士見台自治会

昭和40年(1965)から殖産土地(柵)による造成が始まり昭和40年後半から入居が始まりました。昭和52年2月6日(1972)、約68世帯で柏尾富士見台自治会の発足となりました。初代の会長は齋藤義朗氏でした。昭和61年(1986)に自治会の西側にホームストが開発され、昭和63年より入居が始まり約60世帯が新たな自治会会員として加わりました。53年(1973)より自治会館建設の資金集めが始まり、各家の積み立ての他に資金の一助になればとの思いから、古紙回収を行ない世話人が毎月リヤカーで町内を廻り回収業者まで運んでまいりました。(残念ながらあまりにも大変であったため1年で業者に依頼)昭和60年7月1日(1985)念願の自治会館が完成し、盛大に落成式が行なわれました。

自治会発足の初年より盆踊りを開催し、当初70世帯に足りない会員数で出来るかの心配もありましたが、立派にやり遂げ現在に至っています。自治会独自の活動としては特に緊急時の会員相互の援助活動に力を入れています。そのため緊急時支援委員会を立ち上げ毎月1回自分たちに何が出来るか真剣な討議が行なわれています。その成果として、自分の既往歴、アレルギーや普段服用している薬等を記載した用紙を保管し、消防署と連携し救急車での搬出時などに役立てようとの緊急医療票の整備や、地震等の大規模災害発生時、助けの有無を確認する「無事ですカード」の全戸配布を行なっています。この他冬の

ふれあい祭り（餅つき）、親子ふれあいバーベキュー大会、グランドゴルフ、町内ゴルフコンペ(2011年で77回開催)等を通じ自治会員相互の親睦を図り、明るい町作りを目指しています。



<造成直後の富士見台：昭和40年>

(4) 柏尾台自治会

昭和49年4月(1974)に約80所帯で発足しました。昭和45年より宅地造成に着手し、昭和48年より柏尾台分譲販売が開始されました。当時は陸の孤島と言われ、交通・買い物等不便な住宅地でした。最近になって神奈中のミニバスが通るようになり、足の便は格段に向上しております。昭和55年(1980)より夏祭りを開催し、以降毎年実施しています。柏尾台の夏祭りの最後は打上花火で締めくくり、みんなに楽しんで貰っています。昭和60年には自治会の会員数は約280世帯となり、同年自治会館建設計画に着手しました。そして昭和62年に現在の柏尾台自治会館が完成しました。自治会での独自の活動としては以下の二つに注力しております。

① 柏尾台災害対策ネットワーク活動

災害発生時に「自分達の街は自分達で助け合う」をスローガンに、自治会員の「互いに助け合う」体制作りにも色々取り組みを行っています。

② 柏尾台健康ネットワーク活動

平成20年柏尾台健康ネットワークを立上げ、正式団体として戸塚区に

登録しました。太極拳・ペタンク・麻雀・囲碁・ウォーキング・カルチャー・ラジオ体操・写真・カラオケ等の同好会を発足させ、自治会員が明るく何時までも心身ともに健康で過ごせることを願い活動を行っています。

平成23年5月19日(2011)開催の横浜市老連ペタンク大会に出場し柏尾台健康ネットワークのペタンク同好会が見事優勝しました。同年10月15日熊本で開催される、ねんりんピック[全国大会]に横浜市を代表として出場しました。高齢化が進んでいる柏尾台では、一人暮らしのお年寄りが増えています。柏尾台自治会としては「町内の人々がお互いに助けあって暮らして行く」を大切にし、住みよい地域を築いていくために、色々な活動を計画し今後も実施して行きます。



〈柏尾台での太極拳の様子〉

(5)横濱戸塚優彩の街自治会

平成13年4月(2001)に住友不動産(株)、(株)細田工務店、大和ハウス工業(株)により横濱戸塚優彩の街として販売された。自治会も平成13年4月1日(2001)に発足されました。自治会の方針としては会員相互の信頼に基づいて生活環境の維持向上と地域社会を増進すると共に会員相互の親睦を図ることにしています。

(6)東戸塚グリーンハイツ自治会

昭和60年4月(1985)から東戸塚グリーンハイツ自治会が発足しております。台風、大雨があった場合近くを流れる柏尾川が幾度となく水が溢れ大変でした。昭和60年に第一期の川の拡張工事が始まり昭和62年2月23日に完了。第二期工事が昭和63年4月30日(1988)に始まり、その後2年間で完了し、水が溢れることなく安心して住めるようになりました。昭和62年6月(1987)に納涼祭り実行委員会が設立され、同年の7月より納涼祭が始まり、柏尾連合町内会で開催されるその年の最初の夏祭りとして定着しています。自治会の独自の活動としては、小学校新人歓迎会、納涼祭り、夏休みラジオ体操、クリスマス会、小学生送る会等を行っています。

(7)東戸塚マンション自治会

昭和54年(1979)に70所帯で分譲販売が開始されました。マンションの立地場所は元々沼地であること、JRが側を通ることから、岩盤までの基礎工事を行うことで倒壊しない構造が求められました。また平成18年(2006)には耐震診断による耐震補強工事を実施しており、柏尾地区内では頑強なマンションで通っています。

自治会活動では、他には例をみない納涼祭が注目されています。セミプロのコーラスをはじめ、生バンド演奏や、平成23年(2011)には地域コーラスグループ「風」も参加する地域音楽文化祭の香りのするイベントとなっています。

①大規模修繕委員会

管理組合理事長への諮問機関として発足し、マンションの資産性維持向上のために協力できるプロ&素人の継続的な集まりとして、マンションの施設保全に留まらず、防災・防犯・環境保全の活動を展開しています。

②同好会活動

連合20周年祭りで連合デビューを果たした「燻し吟の会」は、団塊の世代を中心としたパワフルな集まりで、燻製を作製・試食して楽しむ同好会です。その試食タイムには、子育て真っ最中の若い親たちが参加し、子ども達を含めて三世代の楽しい交流の場となっています。この中で柏尾地区の伝統となったインディアカに興味を持った人達で、インディアカ同好会が発足し、月一回の交流を兼ねた練習を継続しています。

自治会活動では「継続は力」を基本に、様々な世代の縦・横の関係を紡いで行く活動と考え、継続的に住民が安心・安全・楽しく過ごせる住環境を、住民とともに「創る」ことを目指しています。

(8)県営柏尾アパート自治会

昭和32年4月(1957)に県営柏尾アパート自治会として発足しました。設立当初は周辺に数軒しか家が無く、豊かな静かな坂の上のアパートでした。若い世帯も多く活気が溢れていましたが、近年高齢化と世帯数が減っているのが少し寂しい状況です。

(9)番外編 - トツカプリンセスの誕生 -

不動坂から瀬谷柏尾道路に入り、JR東海道線を越えた左側に柏尾川に挟まれた旧児玉化学工業工場跡地が広がっている。ここが「柏尾町」と知っている人は少ないが、間違いなく柏尾町380番地である。ここは長らく児玉化学工業の工場として成形品の生産を行ってきたが、一昨年に工場が移転し空き地となっていた。既に柏尾町内にあった児玉化学の家族寮・独身寮も解

体され跡地に新たな15軒の戸建てが出来ている。

最新の情報では、この柏尾川沿いの跡地16,000㎡にフージャースコーポレーションと長谷工コーポレーションが共同で「トツカプリンセス」という大規模マンションを建設する計画が進んでおり、平成24年12月



〈建設が始まったトツカプリンセス（平成23年末）〉

から総計317戸の分譲を開始するという。小学生の学区としては柏尾小学校であり、その受け入れ態勢も検討が始まっているやに聞いている。

昨年この工事の施工会社関係者とのコンタクトがあり、当面柏尾町内会への加入という話も出てきている。最終的にどのような形になるかは不明だが、少なくとも近い将来柏尾地区連合町内会の10番目の自治会が誕生することは間違いないし、世帯数も一気に1割増えることになる。

こうした「新たな柏尾町住民」のために、この「100年史」を増刷することを編纂委員会では既に確認しており、新たな仲間への贈り物としたい。

（編纂委員会）

3 柏尾地区連合町内会の年間行事

(1) 秋季レクリエーション大会

毎年自治会町内会の年中行事として定着している柏尾地区秋季レクリエーション大会ですが、今年(2011)で22回目を数えております。柏尾地区秋季レクリエーション大会のルーツを辿りますと、まず柏尾町独自の「柏尾体育大会」として昭和52年(1977)に当時の柏尾町の青年会を中心にスタートしました。第1回は柏尾町内会を6つのブロックに分け6チームで競技しました。第2回から富士見台自治会と柏陽台自治会が参加して3町内共催となりました。その大会は、柏尾町3チーム、柏陽台2チーム、富士見台1チームで行い、富士見台自治会チームが初参加、初優勝しました。翌年もその方式で行ったと記憶していますが、3:2:1では1チームの富士見台自治会が連続優勝していたこともあり有利との判断となり、第4回大会頃から各町内2チーム、計6チームでの開催となりました。開催場所は柏尾小学校で11月3日が多かったようです。当時から競技内容としては、大人/子供のリレー、綱引き、障害物競争等、今と同じ様な内容で行われておりました。

<柏尾体育大会の役員名簿>

第六回柏尾体育大会役員 1982.11.3

役職名	人数	柏尾町内会	富士見台自治会	柏陽台自治会
大会会長	1	益田庄作		
同副会長	2		(油井 孝)	村上典博
実行委員長	1		油井 孝	
同副委員長	2	益田庄太郎		加藤
同委員	6	伊藤、音藤	乾、城平	勝又、藤井
審判長	1	天本 武		
競技委員長	1	斎藤純一		
接待、受付	3	野尻、婦人部(3人)	渡瀬	松本
放送	3	船見幸子	萩原	藤井
救急、記録	3	若松	小倉	竹田
召集	9	板島、青木、田中(健)	小倉、新納、若土	秋吉、高橋(康)、泉
審判	12	吉倉、大竹、森原、野村	平野、青木、田中、大山	松本、上屋、佐々木、関浦
用具	9	西村、佐々木、田中	中川、大田、山田	須田、竹本、加藤(孝)
商品	3	横尾	山崎	高橋
会計	1			藤井
その他				



<昭和60年頃の柏尾体育大会>

これとは別に、当時は「川上地区連合町内会」(舞岡から平和台まで体育指導委員だけで30名近くいたことから、30近い町内が参加)で秋季レクリエーション大会を行っておりました。第一回大会は昭和33年(1958)に行なわれ、10月10日前後に開催されておりました。昭和56年(1981)度の第24回大会の記録が残っており、この大会では23チームが参加しています。場所としては川上小、舞中、平戸台小等連合町内の小、中学校を使っていました。この川上地区連合の運動会もその後、舞岡や平戸が分離独立し、平成2年の柏尾地区

の独立で 6 つに分かれて現在に繋がっています。さらに農協の運動会もあり役員、選手の派遣と大変だったようです。

その後、平成 2 年(1990)に現在の「柏尾地区連合町内会」が発足し、以後 8 自治会町内会により「柏尾地区秋季レクリエーション大会」としてスタートしています。平成 16 年の 15 回大会から、優彩の街が加わり 9 自治会町内会となりましたが、同時に県営柏尾アパート自治会が高齢化の為、選手が集まらずに不参加、東戸塚マンション自治会も参加出来る種目が少なくなり、ついに不参加となってしまいました。今年(2011)念願の復活を果たし、8 町内の対抗戦で行なわれました。最近 10 年間の優勝回数を見ますと柏尾 6 回、柏尾台 5 回、富士見台 1 回(同点で優勝 2 チームが 2 回)と柏尾、柏尾台の 2 強時代が続いています。

昭和56年度 第24回川上地区体育大会 対抗競技得点表

1. 日時 : 昭和56年10月10日(土) 8:30 ~ 15:30
2. 場所 : 横浜市立川上小学校々庭 3. 記録 : 斎藤

	2 自動車 レース	8 子供対抗 リレー	10 綱引き	14 ビン 起し リレー	町内対抗 17 リレー	総合得点	順位	備 考
平和台町内会	6	● 10	10	● 6	5	37	1	
秋葉町内会	4	● 11	10	5	● 6	36	2	
柏陽台自治会	● 6	● 11	10	3	4	34	3	1位:2回
柏尾町内会	● 6	● 8	10	4	● 6	34	〃	1位:2回
舞岡第1町内会	● 6	● 12	5	● 6	3	32	5	1位:4回
信濃町内会	5	11	5	● 6	5	32	6	1位:2回
舞岡台自治会	5	10	10	3	4	32	7	1位:0回
上柏尾町内会	3	7	10	● 6	4	30	8	
舞岡第2町内会	4	5	10	5	5	29	9	
平戸高層団地自治会	2	7	10	4	5	28	10	
前田ハイツ自治会	3	● 6(女子のみ)	10	1	● 6	26	11	1位:1回
柏尾台自治会	4	● 9	5	4	4	26	12	1位:2回
電々団地自治会	2	9	10	1	3	25	13	
舞岡第3町内会	3	5	10	4	1	23	14	
柏尾富士見台自治会	3	8	5	5	2	23	〃	
前田町内会	1	8	5	5	1	20	16	
県営柏尾アパート自治会	5	5	5	2	2	19	17	
川上町内会	2	6	5	3	3	19	〃	
芹ヶ丘自治会	5	4	5	2	2	18	19	
平戸町内会	2	5	5	2	3	17	20	
平戸住宅自治会	3	4	5	2	2	16	21	
ツアイ・マンション東戸塚町内会	-	-	5	3	● 6	14	22	
前田市街地住宅自治会	-	-	-	-	-	-	23	

(2) 少年少女スポーツ大会

昭和 51 年(1976)より「社会を明るくする運動」(社明運動)が法務省の主唱で行われ、柏尾地区でもスポーツを通して青少年の健全な育成と明るい街づくりを推進するために、連合町内会と社会福祉協議会の主催による少年少女スポーツ大会を開催しています。社明運動が始まる以前にも旧川上連合町内会として、昭和 32 年(1957)頃から少年少女スポーツ大会を開催しておりました。競技種目も随分変遷がありました。

＜少年少女スポーツ大会の変遷＞

年度	男子競技	女子競技	備考
昭和 54 年	ソフトボール	ポートボール(*)	小学 5～6 年生
昭和 55 年	ソフトボール (22 チーム)	ドッジボール (17 チーム)	
昭和 56 年	ソフトボール	ドッジボール	
昭和 61 年	ソフトボール (27 チーム)	ドッジボール (22 チーム)	
昭和 63 年	ドッジボール	ドッジボール	小学生、中学生 4 クラス制

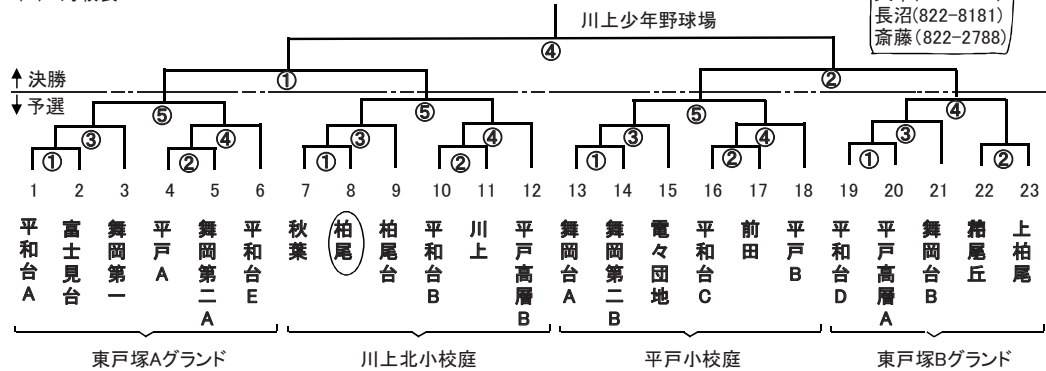
(* : ミニバスの前身)

少年少女スポーツ大会日程表

昭和57年7月10日

連絡先: 益田(822-2530)
小宮(822-6232)
天本(822-2806)
長沼(822-8181)
斎藤(822-2788)

1. 小学生ソフトボール(男子)
(1) 対戦表

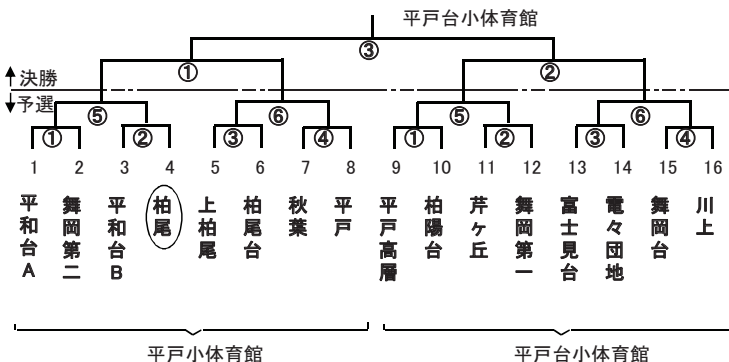


(2) 試合日程
① 予選 7月19日(日) 試合開始(第一試合) 9時 (雨天の場合は26日)
② 決勝 8月2日(日) 開会式 8時 (" " 9日)
③ 練習日 7月12日(日) 9時 ~ 12時

(3) ルール (前回のちらしでお知らせした以外の項目)
① 試合は7回戦、5回間旅後10点差コールド ② バットはソフト用のもの
③ 球は2号球 ④ 投手、捕手間10.67m、塁間18.29m
⑤ その他詳細は練習日にお知らせします

注意: 体育館では上ばき使用のこと
館内での飲食、喫煙は禁止!

2. 小学生ドッジボール(女子)
(1) 対戦表



(2) 試合日程
① 予選 7月26日(日)
試合開始 10時
(第2試合)
平戸小体育館
② 決勝 8月2日(日)
試合開始 10時
平戸小体育館

☆ ③ 練習日 7月12日(日)および9日(日)、場所: 柏尾小体育館、8時30分集合

(3) ルール (詳細は練習時にお知らせします)
① 1チーム15名(内野10名、外野5名) ② 時間は前半5分、休憩1分、後半5分(延長3分)
③ コートはミニバス程度(約10×20m) ④ タイムなし、メンバー交替は休憩時のみ
⑤ 勝敗は残った内野数で決まるが、内野又は外野が0になったらその時点で終了
⑥ 首から上、ヒザから下はセーフ ⑦ 壁からのクッションボールは外野ボール。(タッチの時は内野ボール)

開催時期は夏休みに入ってからの日曜日で、連合が大きかった関係で、予選1日、決勝戦1日となっていました。その後、旧川上連合町内会が次第に細分化（最終的に6つに分割）され、大会は1日で終わるようになりました。また競技種目もソフトボールは少年野球チームが常勝するようになり、サッカー人気が高まる中で参加者が減り「誰でも参加できる競技を」ということでドッジボールに変更となりました。女子チームもミニバスが各校でクラブ化される中で、次第にクラブ員と一般の子供との格差が拡大し、男子と共にドッジボールに変更されました。

その後昭和62年(1987)に横浜市でさわやかスポーツの普及が始まり6種目あった競技の一つとしてインディアカが紹介され、柏尾地区連合町内会が発足した平成2年(1990)には男女ともインディアカを取り入れました。それ以降も他の連合がソフトバレーやドッジビー等に競技を代える中、柏尾だけはインディアカを通し続けております。

(3)大人のインディアカ大会

少年少女スポーツ大会を経験した高校生や大人の人たちが自分たちもインディアカをやりたいという声に応え、平成13年(2001)に「第1回大人のインディアカ大会」として開催することになりました。第1回は経験者と未経験者のグループに分け、それぞれ8, 9チームで合計17チームの参加がありました。その後誰でも参加しやすいように、上級、中級、準中級、初級とレベルを4クラスに分け、平成23年の11回大会では46チームの参加があり、非常に盛大な大会になっています。大人のインディアカ大会を契機に、柏尾町、柏尾台、東戸塚グリーンハイツ、東戸塚マンションの各自治会町内会でも同好会が出来るまでになっています。また平成17年(2005)からは舞岡中学校区の学校家庭地域連絡協議会の行事の一環である「スポーツ交流会」として柏尾小、舞岡小、東戸塚小、PTAを含めてインディアカを楽しんでおり、インディアカが柏尾のスポーツとして定着した感があります。



〈大人のインディアカ大会〉

(4)元旦 マラソン

元旦マラソンの起源は35年前に柏尾町で青年会が発足した時点に遡ります。当時、多くの若者達が柏尾町の将来について論議しあう中から、20～30代の青年約100人を中心に柏尾町青年会が結成され、初代会長に天本武氏が就任しました。そしてただ集まって話し合うだけでなく、色々な行事を通じて多くの人と知り合い輪を広げていこう、ということで各種行事を企画しました。その第一の目的は、当時柏尾町には子供会がなかったので、子供会を作ることに主眼を置き、そのために子供の親を組織することとしました。最初は従来町内会として行っている各種行事への青年会の積極的な参加で、盆踊りの出店や王子神社祭礼での子供神輿の町内への繰り出し等を行いました。新たに起こした事業としては、ママさんバレー部の発足、柏尾町独自の運動会、青年会独自の花見（王子神社境内に記念の桜を植えました）、登山（富士山、大山、丹沢等）、ソフトボール大会、夏休みのラジオ体操等が挙げられます。それから2年ほどして漸く子供会の発足となり、初代会長に西村浩氏がなされました。

< 第5回柏尾元旦マラソン実施要綱 >

第5回柏尾元旦マラソンの実施要綱が決まりましたのでお知らせいたします。

1. 日 時：昭和57年1月1日(全) 集合 8:30、スタート 9:00
2. 集合場所：柏屋商店駐車場（下町駅前）
3. コース：集合地点→富士見→柏尾小学校→柏尾台→王子神社（約2キロ）
4. 参加資格：柏尾町民。（但し、飲酒しての参加、及び体調の悪い方はご遠慮下さい）
5. その他：解散地点の王子神社にて、参加賞と甘酒を配布します。

(参加賞は捺印の上、速やかに回収して下さい)

<元旦マラソン案内：昭和57年>

元旦マラソンはこうした運動の一環として企画されました。当時は齋藤宣雄前会長のお父さんが町内会長で且つ氏子の役員だった関係で、「年初めに皆と一緒に神社へお参りに行こう。でも何か新しい試みを」ということで「元旦マラソン」になりました。昭和53年(1978)が第一回目になります。出来るだけ町内全域を回ろうということで、スタート地点は不動坂の柏屋商店駐車場で、コースは1コースのみ、ゴールは王子神社でした。柏尾町内会独自の行事でしたが、参加者は昭和60年の青年会総会議案では、「第8回大会 参加90名」となっています。

ゴールが王子神社でなくなったのは平成15年(2003)からで、その時は現在の町内会館下の「柏尾第5公園」が解散地点で、翌年から当時の校長の配慮で柏尾小学校の駐車場を使うようになりました。

平成2年(1990)に柏尾地区連合町内会が川上地区連合町内会から分離独立した際、「柏尾町独自の行事から連合町内会の行事へと格上げ」し、併せて主管も柏尾町青年会から「青体指」へと移管されました。コースも5km、3km、1kmの3コースに増えました。

現在記念撮影に使用されているトロフィーは、マンネリを防ぐために何か新たな企画をと考えていた時期に、連合町内会の一泊研修会で当時の廣海校長(第9代校長)との話し合からアイデアが生まれ、校長のポケットマネーで用意していただきました。その時期から小学校でも本格的に児童への参加を呼びかけてくれるようになりました。

エピソードとして、道路の使用に関して警察に呼ばれたことがありました。当初は公道を使用するというので例年戸塚警察署へ届出をしていました。その後柏屋商店の金子基氏が交通指導員だったこともあり、不動坂交番への口頭での申し入れだけで済ますようになりました。ところが何年か経ち、交番の警察官が交替となった時期に金子氏宅へ「誰の許可を取って道路に線を引いているのか？」と問い合わせがありました。金子氏がその経過を説明したのですがどうしても納得せず「責任者を連れて来なさい」ということになり、大晦日の夕方柏屋商店の2階に待機していた警察官2人に事情を説明し、2時間ほど掛かって漸く「事後承認」となりました。そんなにしても元旦に警察官が交通整理に来たことは一度だけです。

一時期参加人数が少なくなった時期もありましたが、最近の大会では150名を超える参加者が集まり、他の地区からは「元旦から柏尾はスゴイ」と言われております。

(5)さわやかウォーク

柏尾さわやかウォークの発端は、戸塚区の「ふれあいウォーク」の「柏尾版」的意図から始まっています。地域住民の親睦を深め、また青少年の健全な育成と自分の生活する地域への理解を促す趣旨で平成5年(1993)に第1回のさわやかウォークが開催されました。その時のコースは柏尾近辺の史跡めぐりということで、首洗い井戸、鎌倉ハムの倉庫等をめぐりました。以降、大池公園、舞岡公園、保土ヶ谷の児童公園、鎌倉、弘明寺など柏尾地区を中心とした周辺で、毎回約10kmを目処として開催されています。平成21年(2009)からは、不動坂の脇に大山不動尊があり、柏尾は大山道「柏尾道」の起点になっていることから、大山まで歩こうと言う話になりました。一日で大山まで行くのは無理なため、4回に分けて4年越しで大山まで歩くことになり、一回目は柏尾町の旧公民館から地下鉄の下飯田駅まで、二回目は小田急長後駅から相模線の門

沢橋駅まで、第三回目は門沢橋駅から小田急伊勢原駅まで歩きました。次回は
いよいよ最後の大山登山になります。

(6)餅つき大会

昭和53年(1978)に第一回目の柏尾町の餅つき大会が開催されました。きっかけは当時発足した柏尾青年会の「色々な行事を通じて多くの人と知り合いの輪を広げていこう」との趣旨からで、その一環として始められました。

連合町内会の餅つき大会のきっかけは、当時PTA会長だった益田庄太郎氏(第3期柏尾青年会第2代会長)が、学校の週5日制に合わせて、学校5日制支援事業推進協議会とPTAで始めたことが最初です。一時期中断された時期はありますが、平成14年(2002)に多くの団体が参加する実行委員会形式で再開され、現在の「柏尾地区餅つき大会」に繋がっています。その後平成20年(2008)には舞岡中学校区学校・家庭・地域協同事業実行委員会も主催に加わり、毎年沢山の中学生にお手伝いいただいています。平成23年でちょうど10回になりました。

回覧	No 56-19
第4回もちつき大会	
町内各位 殿	昭和56年12月13日 柏尾青年会 会長 益田 庄太郎
昨年引き続き、今年も年末恒例の「もちつき大会」を開催致します。 今年は昨年以上に量も増やし、盛大に行なう予定ですので、千七ッゴをはじめとして、町内 多数の皆様のご参加を、心よりお願い申し上げます。	
1. 日 時 : 昭和56年12月20日(日) 10:30~12:30	
2. 場 所 : 王子神社境内	
3. 持参するもの : 臼し、小皿	
4. 参加資格 : 柏尾町民、参加無料	
5. お願い : 毎年、あんこ、きなこ、太根ぶろしを用意する為、非常に大変します。お母 さん方の応援をお願いします。役員及びお手伝いの方は、会場に8:30に ご集合下さい。	
以 上	

<柏尾町もちつき大会案内：昭和56年>

(7)防災訓練

柏尾地区では平成2年の連合発足以来、例年8月末或いは9月初頭に地域ぐるみの「拠点防災訓練」を行っている。特に平成23年は東日本大震災の事例に学び「大地震など災害発生時に安否確認及び情報受伝達が正確に行えるよう訓練を行う」として、各自治会町内会の一時避難場所と防災対策本部（柏尾小学校）を防災無線で繋ぎ相互に連絡を取り合いながら、安全に避難誘導する訓練を行い大きな実績を挙げることができた。

また平成22年度は柏尾地区連合町内会を中心に柏尾小学校、ケアプラザ、戸塚区役所の4者による合同避難訓練を行い1,000名近い参加者があり大きな成果を収めることができた。

最近7回の訓練内容と実績は以下の通りである。（平成17年分は不明）

年 度	実施日	場 所	参加者数	特記事項	備 考
平成16年	9月5日	柏尾小校庭	337名		
平成18年	9月3日	〃	440名		
平成19年	9月2日	〃	512名	渡辺所長巡視	ブルーシート簡易テント設営
平成20年	8月31日	〃	974名	中田市長巡視	小学生参加
平成21年	8月29日	〃	900名	降雨体験車	〃
平成22年	8月29日	〃	992名	葛西区長巡視	地域・学校・行政合同訓練
平成23年	10月23日	〃	603名	情報受伝達	地域独自訓練

<最近の防災訓練の状況>

上記表でも分かるように近年防災訓練の重要性が見直された結果、参加者数が急増している。

この防災訓練では例年救援物資の配付も行っており、炊飯器による炊き出しでのおにぎりや地元山崎製パンからの菓子パンの提供（一部無償提供）、横浜市からの



<BS自衛消防隊によるポンプ操法：平成23年>

乾パンや飲料水の提供等多岐に渡っている。また、平成23年には地元消防団の一斉放水と並んで、ブリヂストン横浜工場の自衛消防隊によるポンプ操法の模範演技も行われ参加者に大きな感動を与えている。



〈レンジャー隊員の降下訓練：平成22年〉

この他柏尾地区連合町内会では紙飛行機大会、新春書道展、ドッジボール大会、児童文化教室等様々な行事が行われております。